石巻専修大学
●「石巻専修大学」ホームページ● https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

最新の情報は大学HPで。

2020年度教員採用試験

理工、人間学部 理工学研究科 9人が合格

試験対策講座で真剣に課題に取り組む受講生＝8月

今年度の教員採用試験に、理工学部3人、人間学部5人、大学院理工学研究科1人の計9人が合格した。氏名は次の通り（敬称略。学部生は4年次、大学院生は1年次）。

【理工学部】
古川真澄（宮城県仙台三桜高）▽渡邊琳（宮城県仙台育英学園高）▽菅原大暉（宮城県東陵高）

【人間学部】
佐藤健士郎（山口県高川学園高）▽寺嶋敬汰（宮城県仙台東高）▽小指有沙（宮城県石巻好文館高）▽前村拓弥（熊本県専修大学玉名高）▽千葉良大（宮城県石巻好文館高）

【理工学研究科】
木村光平（宮城県石巻工業高）

生物科学科の菅原さんは、渡辺正芳准教授による教職セミナーに参加。古川さん、渡邊さんら中学校・高校の理科教員を目指す仲間とともに勉学に励み、中学校（理科）の試験に合格した。「同じ目標を持った仲間とともに、高い意識を持って学べたことが合格の要因の一つ。理科の魅力や楽しさを伝えられる教員になりたい」と話した。

人間文化学科の寺嶋さんは、目標だった中学校（英語）の試験に合格した。「4年間努力を続け、英語力を伸ばしてきた。教育法規や専門科目、試験に向けた面接対策などは、他学科の先生にも指導していただいた。先生方の熱心な指導に感謝している」と述べた。

合格者のうち7人は、保育士・教員養成センター主催の教員採用試験対策講座を受講。人間教育学科の小指さんは、1年次から同講座に出席し、小学校教諭という夢をかなえた。「教員になりたいとずっと思い続けていたので、合格できてとてもうれしい」と喜ぶ。勉強と並行して、子どもたちの学習支援・居場所支援のボランティアに携わっており、「児童と信頼関係を築き、心の支えになれる教員を目指したい」と将来像を語った。

本番さながらの雰囲気で行われた模擬面接

宮城教育大と協定締結

協定書を交わす尾池学長（左）と村松学長

石巻専修大学（尾池守学長）と国立大学法人宮城教育大学（仙台市、村松隆学長）は10月19日、教職大学院の特別入試に関する協定の締結式を行った。

近年、教育現場ではより高度な専門性と豊かな人間性を備えた教員が求められている。本協定を通じて、教職を志す本学の学生が宮城教育大学教職大学院で実践的指導力を高め、地域や社会に貢献することを目指す。

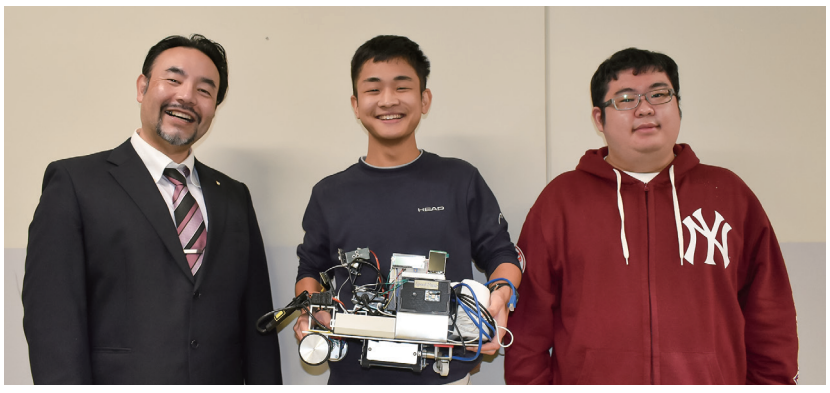
経営・渡邊助教 日本物流学会賞

経営学部の渡邊壽大助教＝写真＝が、第37回日本物流学会全国大会で日本物流学会賞（論文等の部）を受賞した。

受賞したのは、第一著者として執筆した共著論文「地方コンテナ港のインセンティブ助成に関する分析」。

地方コンテナ港でコンテナ貨物の獲得や新規荷主を開拓するために実施されているインセンティブ（奨励金）助成の特徴を整理したうえで、助成の金額や条件が外貿コンテナ貨物取扱量に与える影響などを、データに基づき検証した。

受賞を受けて渡邊助教は「論文執筆にあたり、実務に携わる方々から多大な協力を得た。少しでも貿易の現場に貢献できるよう、今後も研究活動に精進したい」と語った。


入賞を喜ぶ左から水野教授、今野さん、佐藤さん

国際ナノ・アプリコンテスト
ロボ研チーム SECOND PRIZE受賞

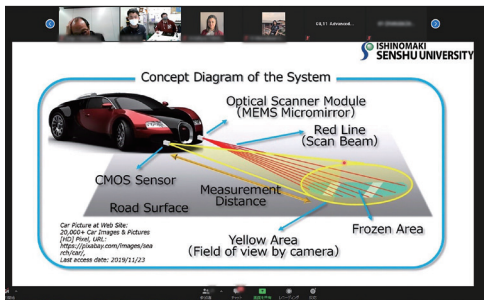
国際ナノ・アプリケーションコンテスト（iCAN' 20）の国内予選大会で優勝した本学ロボット研究会の「ROGERIO」チームが、10月27～30日に中国・青島で開催された世界大会にオンラインで出場した。世界大会には各国の予選を勝ち抜いた強豪15チームが参加。「ROGERIO」は初出場ながら健闘し、最優秀の2チームに次ぐ、「SECOND PRIZE」を受賞した。

iCAN' 20は高校生から大学院生までを対象にした国際大会で、各チームがMEMSデバイス（デジカメの手ぶれ防止などに使われる小型センサー）を用いたアプリケーションを提案し、その独自性や社会における有用性などを競う。

研究会代表の今野優さん（理工3・宮城県利府高）と佐藤諒さん（理工4・秋田県秋田工業高等専門学校）は、理工学部の水野純教授の指導のもと、自動車のスリップ事故を防ぐ「路面状況検出システム」を開発した。

システムを考案し、英語でのプレゼンテーションもこなした今野さんは「将来の夢はシステムエンジニアになり、人の役に立つモノ作りをすること。その意味でも今回の経験は非常に有意義だった」と充実感をにじませた。

水野教授は「自主的に取り組む姿勢や強い意志があったからこそ、素晴らしい成果を残せたのだと思う」とねぎらい、来年の大会を見据え「世界一を目指して現システムの完成度を高め、本学の存在を世界に発信したい」と語った。



オンラインで行われた世界大会。画面はロボ研チームの提案概要

初めての稲刈りに取り組む木村さん

杉田ゼミ 稲刈りに参加
こめぼこ商品化プロジェクト

高大産連携プロジェクトの一つ「こめぼこ商品化プロジェクト」に参加する経営・杉田博ゼミの学生が、石巻北高校農場の稲刈りに参加した。

同プロジェクトは、石巻北高校と宮城県水産高校が考案した米粉入りのかまぼこ「こめぼこ」を、高橋徳治商店、石巻信用金庫、楽天野球団の協力で販売し、地域ブランド化を目指している。杉田ゼミでは2017年から田植えや稲刈りに協力しており、収穫した米の一部が加工されて商品となる。今回は吉田直弥さん、木村凌真さん、三浦大典さん（いずれも経営3・宮城県石巻商業高）が参加。吉田さんは「初めて稲刈りを経験した。こめぼこができるまでの苦労の一端を知ることができ、いい勉強になった」と話した。

稲刈りに先立ち、これまでの売り上げの一部を楽天野球団が設立した任意団体「TOHOKU SMILE PROJECT」に寄付した。同団体は、被災地にこどもスタジアムなどを建設する活動に取り組んでおり、石巻専修大学もこの活動を応援している。

石鳳祭
オンラインで開催

「2020石鳳祭」が10月11日に行われた＝写真。非対面授業が続き、友達づくりに不安を抱える1年次生のために、今年は参加者同士がオンラインで交流しながら親睦を深められる企画を用意。石鳳祭実行委員会の学生が進行役となり、学部・学年の垣根を越えて、オンライン大学祭を楽しんだ。